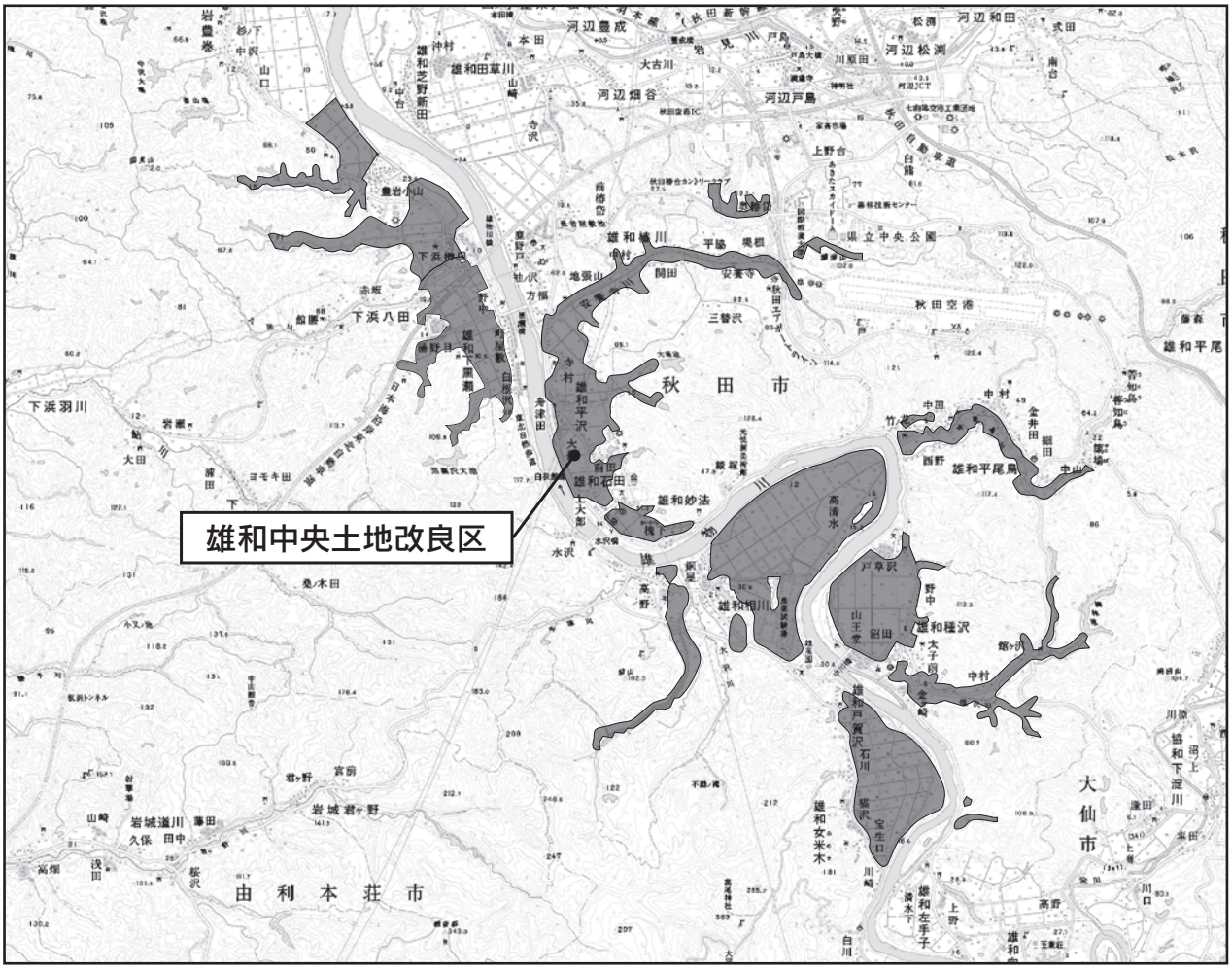
新たに合併した土地改良区についてお知らせいたします。

雄和中央土地改良区

合併土地改良区	雄和中央土地改良区・秋田市豊岩小山土地改良区		
合併形態	吸収合併		
合併認可	令和2年1月29日	組合員数	612人
理事長	伊藤　錚悦	所在地	秋田市雄和妙法字上大部23
面積	1,041ha	連絡先	TEL.018-886-2663　FAX.018-886-4022



令和元年度第3回水土里の広報委員会を開催

2月26日（水）本会第1会議室にて「令和元年度第3回水土里の広報委員会」が開催された。

初めに本会総務企画部佐藤部長より「広報委員会は平成29年度から今回を含め延べ8回開催している。その間ワークショップ等を通じて、皆さんの広報のスキルも向上し、一定程度の成果が得られたと言う事で、来年度からは一旦休止をする事となった。これまでの皆さんからのご協力に感謝を申し上げると共に、今後広報等に関する相談は今まで通り事務局にご連絡頂ければと思う」と挨拶があった。

今回は、これまで委員会で話し合いを重ね出た意見や、先に事務局で改善出来る点などを反映させて作成した**「水土里ネットだよりVol.4」**についてと**各管内（委員の皆さん以外の改良区）の広報誌**について改善点などはないか3グループに分かれそれぞれ話し合いをしてもらった。

グループワークで出された意見は下記の通りである

■「水土里ネットだよりVol.4」について

・表紙を写真にする事でインパクトがあり良い
・「子ども絵画展」参加小学校にも水土里ネットだよりを配布してはどうか
・前回（Vol.3）のデザインの一部活用等

■各管内の広報誌について

・個人情報は充分に注意をして掲載しなければならない
・広報担当が集まる機会を作り、研修会を開催してはどうか
・文字だけではなく、写真やグラフの有効活用等

改良区発刊の広報誌については、**「改良区毎の職員数や予算の関係もあり、広報誌を発行する事だけが目的になっている所もある」**と言った声や**「なかなか他の改良区の広報誌を見る機会がなかったが様々な改良区の広報誌を見る事が出来て良かった」**との声が上がり、委員同士の有意義な意見交換の場とする事が出来た。

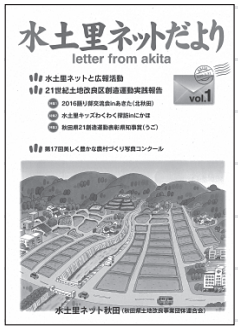
今回で広報委員会は一旦休止となるが、今まで委員会で出た沢山の意見をこれからも反映させ、より良い広報活動、広報誌をお届け出来るよう事務局一丸となり活動していきたい。

～「水土里の広報委員会」これまでの成果について～

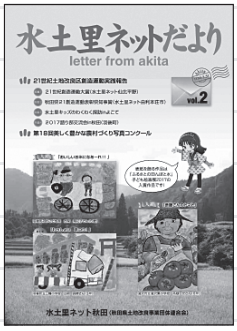
平成29年度より「水土里の広報委員会」を計８回開催し、沢山の話し合いを重ねてきましたが、その成果について一部ご紹介します。

■「水土里ネットだよりVol.1 ～ 4」

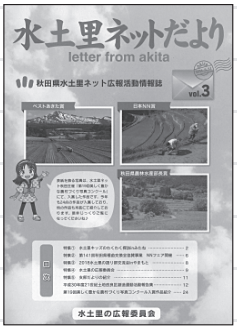
Vol.1



Vol.2



Vol.3



Vol.4

作成中

良くなった点

○文字を減らし、イラストや写真を増やして読みやすくした

○手に取りたくなるような表紙のデザインに一新した

○紙質をコート紙に変え、写真がより綺麗に見えるように工夫した

○幅広い世代に見てもらえるよう、今回（Vol.4）から秋田市内の小学校にも配布etc.

〈例〉「水土里キッズのわくわく探訪」ページ

説明を簡素化し
写真を大きく載せた

after（Vol.3）

before（Vol.1）

行った場所が一目で分かるように
地図を付けて見やすくした

来年度発刊「水土里ネットだよりVol.4」では、今回ご紹介した改善点以外にも今までの広報委員会でご提案して頂いた内容を踏まえ、更に見ごたえのある広報誌となっております。4月発刊「秋田の土地改良」と一緒にお届けする予定となっていますので是非ともご覧ください！

令和元年度 東京フォーラム 「農業農村の多面的機能の保全対策」が開催される

2月20日（木）東京都化学技術館サイエンスホールにて、東京フォーラムが行われた。今回は農業農村の多面的機能の保全対策をメインテーマに、東京農大教授の藤川智紀氏、新潟県の（一社）農村振興センターみつけ事務局長　椿一雅氏、及び兵庫県の浅野美しい村づくり代表　藤本忠義氏より講演があった。特に、平成19年度から始まった多面的機能支払い制度により、全国2,800組織で農振農用地の54％をカバーし、令和2年度を含む事業費が1兆円を超えるなか、その効果が評価されているものの、人口減少、高齢等により交付金活動の継続が厳しい地域がみられている状況となっている。

このようなことを踏まえ、講演では、「農山村の持続的な発展のためには何が必要か」、「地域の抱える現状の課題と工夫」また農水省の若い人への意識調査によれば、同事業へ協力したいとの回答が8割もあることから、若い世代の事業でもあるとの認識で農業者以外と協力し展開していくことが大切であり、そのためにはより分かりやすい形で伝えることが必要であるとの報告があった。また同時に若手技術者の資質向上を目的とした、令和元年度（第11回）梶木賞の表彰式が行われ、本県からは県農山村振興課の田中裕太郎さんの「農村の直面している課題とその対応策【人口減少の対応策としてのほ場整備の効果について】」が優秀賞を受賞した。

水土里ネット秋田　退職される方々からひと言

今年度で退職される4名の役職員の方々をご紹介します。
1．所属・役職　　2．ひと言

藤原　元吉

1.専務理事
2.平成28年4月から4年間お世話になりました「水土里ネット秋田」を3月末で退職することになりました。この間、関係の皆様からは多くのご支援・ご指導を頂き、感謝申し上げます。4月からは、実家である湯沢市において中山間地域の農地保全に尽力しておりますので、引き続きのご指導をよろしくお願いします。

松橋　久光

1.総務企画部　広報・渉外班
専門員
2.新米の技師時代より専門員（畜産会館・福祉会館・土地改良会館1F～ 3F）まで、様々な分野で土地連・土地改良区の皆様のご指導により業務ができたことに感謝しております。4月以降も農業農村整備の分野で頑張ります。今後ともよろしくお願いいたします。

真坂　千鶴子

1.総務企画部　総務・経理班
主事補
2.この度、28年間お世話になりました「水土里ネット秋田」を3月末をもちまして退職することになりました。在職中は、皆様よりたくさんのご指導を頂き、心より感謝申し上げます。たくさんの方々との出会いに感謝し、これからの糧として活かして参りたいと思います。長い間大変お世話になりました。

倉部　美知子

1.秋田県多面的機能支援協議会
主事補
2.多面的機能支払交付金の仕事に携わるなかで様々なことを学び、また多くの貴重な経験をさせていただきました。皆様から温かなご指導・ご助力をいただいたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。